

JANUARY 2022

名古屋能楽堂

正月特別公演

能・狂言でめぐる街道の名所

—三保の松原ゆかりの能・名古屋市東区の寺院ゆかりの狂言—

日本一の山と、空と海と

『竹取物語』で、天にいちばん近い山と呼ばれる富士山。空のかたから天女が降りてくるとしたら、きつと目印にするはず。そして、もう一つのかた、海を見渡せる美しい松原で遊ぶはず……。『羽衣』の伝説は、そんな想像から生まれたかもしれません。

お正月恒例の『翁』、名古屋の長母寺(東区)の住職・無住が編んだ『沙石集』を原作とする狂言『附子』とともに。



能「羽衣」(観世流)



能「翁」(観世流)

能

狂言

能

「翁」(観世流)
おきな

翁 久田 勘鷗
千歳 伊藤 裕貴
三番叟 野口 隆行

「附子」(和泉流)
ぶす

シテ 佐藤 友彦

「羽衣」和合之舞 (観世流)
はごろも

シテ 久田三津子

令和4年
1月3日(月)

13:00開演 (12:00開場)

※能「翁」開演後30分間は入退場できませんのでご注意ください。

全指定席

正面席A 5,200円

正面席B、中・脇正面席...4,200円

学生券(正面席A以外)...2,000円

※学生は25歳以下を対象とします。
※チケットは1回につき4枚までの販売とさせていただきます。
※本公演の座席は定員の半以下の数で、市松模様状に配置しております。
※感染予防のため、ご来館の際はマスクをご着用ください。
マスクを着用でない方の来館はお断りします。
※入場時の検温にご協力をお願いいたします。
37.5度以上の場合は入場をお断りします。



文化庁 大規模かつ質の高い文化芸術活動を核としたアートキャラバン事業
Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

主催 公益社団法人 名古屋市文化振興事業団 [名古屋能楽堂] 公益社団法人 能楽協会 名古屋支部

10月13日(水)より
前売券発売



※能「翁」開演後30分間は入退場できませんのでご注意ください。

能 翁(観世流)

翁	久田 勘鷗
千歳	伊藤 裕貴
三番叟	野口 隆行
面箱持	伊藤 泰
笛	竹市 学
脇鼓	古田 知英
小鼓頭取	曾和 鼓堂
脇鼓	成田 奏
大鼓	河村裕一郎

後見 祖父江修一
下川 宜長

狂言後見

野村又三郎	藤波 徹
本田 勲	山中 雅志
上田 貴弘	山田 義高
地謡	松山 幸親

狂言

附子(和泉流)

休憩十五分

シテ	太郎冠者	佐藤 友彦
アト	次郎冠者	今枝 郁雄
アト	主人	佐藤 融

後見 井上松次郎

能 羽衣(観世流)

シテ	天人	久田 三津子
ワキ	漁夫白龍	飯富 雅介
ワキツレ	漁夫	相元 正樹
笛	竹市 学	
小鼓	船戸 昭弘	
大鼓	河村総一郎	
太鼓	鬼頭 義命	

後見 祖父江修一
山田 義高

吉沢 旭	松山 幸親
下川 宜長	山中 雅志
地謡	本田 勲

(午後四時頃終了予定)

【イヤホンガイド】

◆能「翁」

日本語／大山 範子
(神戸女子大学古典芸能研究センター 非常勤研究員)

英語／藤江さおり(通訳ガイド)

◆能「羽衣」

日本語／伊藤 利香(名古屋能楽堂 イヤホンガイド)

英語／藤江さおり(通訳ガイド)

●止むを得ず曲目、出演者等が変更となる場合があります。
●上演中の写真撮影・ビデオ撮影・録音は事前に許可を受けた方以外はご遠慮ください。

◆能解説「翁」(おきな)

新春、切火で清められた舞台上に、潔斎をすませた演者が、面箱・翁・千歳・三番叟と続いて全員が登場する。「切火」とは、この場合、幕際から火打石で火を飛ばすこと。後見の役割、清新の気が漲る。「翁」は狩衣、指貫、面箱・千歳・三番叟は侍烏帽子に直垂、唯子・地謡などは侍烏帽子に素襦を着る。

「翁」の舞は三部から成り立っていて、最初の千歳は「鳴るは滝の水」と謡い出し、若々しく飄爽とした舞。次に翁の面を舞台上でつけたシテは祈禱的な意味合いを持つ重厚な舞を舞う。その中で、角・脇座前・中央で三回ずつ拍子を踏む。これを「天地・人の拍子」と称する。翁と千歳の退場後、三番叟の賑やかな舞となる。はじめの部分を「採之段」、黒式尉の面をつけ、鈴を持った後半部の舞を「之段」と称する。天下泰平、国土安穩を祈る儀式能。

新年の翁、それはさわやかな日本の新春。

◆狂言解説「附子」(ふし)

主人は外出するにあたり、二人の召使いに「附子」を託して「これは吹く風に触れるだけでも滅却(死)に値するほどの猛毒なので用心しながら決して中を見るな!」と云い付けて出掛けます。残された召使いは怖々と見張りながらも段々と中身が気になって...

本来は「毒」と書いて「ふす」と読み、自然界に存在する野草などのうち毒性の強いものを指し、代表的なものには「トリカブト」があります。狂言に於いては「一流派」を指し、「不須」の表記が、また人物設定では「主人」と家来として伝承されており、最古の狂言集と云われる「天正狂言本」(16世紀)・安土桃山時代に同じ主従関係でも「和合」と小坊主とに類似の「エピソード」がすでに存在している。この説話集は名古屋市中区に現存する長母寺の住職による編纂と伝えられています。あの一休さんの頓智話(和合の留守中に水船を見つけた一休が、全て食べてしまったのちに言い訳を考えるを思い出される方もあるでしょう。「やれ!」と云われればやりたくない、「やるな!」と云われればやりたくない。誰しにも起こり得る相反する葛藤がよく表されている事から、本来は「欲や嘔」を戒める僧侶の教訓として用いられてきたのではと推察します。

かつては小学6年(光村図書刊)の国語教科書に、現在は小学5年(教育出版刊)に採用され生徒児童向けの上演機会も多く、『狂言』と云えば附子と知られるほどの代表作です。
(井上松次郎)

◆能解説「羽衣」(はつゐ)

駿河国三保の松原に住む白龍という漁夫が、今日も連れ立って釣りにやってきました。浦の景色を眺めていると、空に花が散り、音楽が聞こえ、い香りがかかります。見回すと、松の梢に美しい衣が掛かっています。家の中にいっしょと思いつき、持ち帰ろうとします。一人の女性が現れ、私の衣なので返してほしいと頼みます。そして自分には天の羽衣、人間が持つものではないと云います。白龍は、先に衣を返すか、返さずとします。天人は、羽衣がなければ天に帰れません。天の原ふりさけ見れば霞立つ雲路まで行方知らずと語り、空に行き雲を踏み鳴ります。白龍は、天人が可哀そうになり、天人の舞姿を見せたくれたら衣を返そうと言います。天人は喜んで承知し、まず羽衣を返してほしいと言います。白龍は、先に衣を返すか、舞姿を見て帰ってしまふのではと心配しますが、疑い人間にあり、天上には偽りは無いと言われ、恥を知り衣を返します。天人は羽衣をまとい、月宮殿の天人の生活の面白さや、春の三保の松原の景色を称え、駿河舞を舞いながら、天上へと帰っていきます。
(おわりに)

羽衣伝説は各地にあります。最古のものとしては、滋賀県余皇湖を舞台とした「近江風土記逸文」のもの、京都府京丹後市を舞台とした「丹後風土記逸文」と言われています。これらの伝説が、各地に広まり定着していったのだと考えられています。さて、風土記は、奈良時代の初期に全国で書かれたものですが、出雲国・播磨国・肥前国・常陸国・豊後国の5つが写本で現存しています。その他の風土記にも、別の書物に転載されて一部が伝わっているものがあり、これを「逸文」と呼んでいます。

正月特別公演事前学習講座
12月11日(土) 14:00~16:00

受講チケット500円

◆能「翁」「羽衣」のあらすじ、見どころを解説します。詳細は事前学習講座チラシをご覧ください。
※事前学習講座のチケットは、名古屋市文化振興事業団の管理する文化施設窓口にて取り扱いをしております。

チケット料金(税込) *前売券発売日 令和3年10月13日(水)

全指定席	正面席A	正面席B・中正面席・脇正面席	
		一般 Adult	学生 Student under 25 years old
前売 Advance sale	5,200円	4,200円	2,000円

*学生券は25歳以下を対象とします。*未就学児のご入場はお断りいたします。
*チケットは1回につき4枚までの販売とさせていただきます。

*事業団友の会会員・障がい者手帳等をお持ちの方(付添者1名含む)は400円引きです。(学生券の割引はありません。)
(名古屋能楽堂・事業団チケットガイド・事業団施設窓口のみ、各割引の併用はできません。)

前売券取扱所 Ticket Office

名古屋能楽堂/TEL.052-231-0088

*前売券発売日当日は、お電話がつながりにくいことがあります。

名古屋市文化振興事業団チケットガイド/TEL.052-249-9387

(平日9:00~17:00/チケット郵送可)

名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口<土日祝日も営業>でもお求めいただけます。

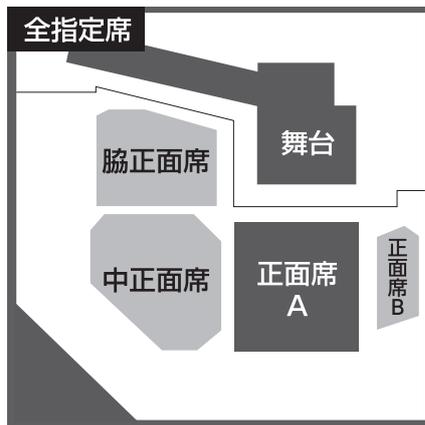
(工事休館などがありますので、ホームページでご確認ください。)

チケットびあ/TEL.0570-02-9999(Pコード508-784)

*外国籍が証明できるパスポート等を持参された方には前売・当日とも割引きます。(名古屋能楽堂取扱いのみ)

Discount is available by showing passport or other proof of foreign nationality. (at Nagoya Noh Theater only)

お問い合わせ先/名古屋能楽堂 TEL 052-231-0088 FAX 052-231-8756



【感染予防への取り組みとお願い】

- ◎感染予防のため、ご来館の際はマスクを着用ください。マスクを着用でない方の来館はお断りします。
- ◎入場時の検温にご協力をお願いします。37.5度以上の場合に入場をお断りします。
- ◎チケットの半券にお名前と連絡先電話番号をご記入ください。ご記入いただきました個人情報、新型コロナウイルス感染者が発生した場合など必要に応じて保健所等の公的機関へ提供されます。一定期間経過後に適切に破壊させていただきます。
- ◎本公演の座席は定員の半分以下の数で、お客様同士の距離を保っていただくため松模様様に配置しております。
- ◎本公演は名古屋市の「文化施設における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づき実施いたします。ガイドラインに基づいた対策にご理解・ご協力をお願いいたします。

公演についての最新の情報は名古屋能楽堂ホームページをご覧ください。



https://www.bunka758.or.jp/scd24_top.html